

# 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

(令和5年3月7日 午前10時50分)

●議長(佐藤武雄) 休憩前に続き会議を開きます。

通告の7、佐藤博一議員。

## 1、町長の政治姿勢

議席番号6番、佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 議席番号6、佐藤博一でございます。また前回の12月会議で政治姿勢について町長にお伺いしました。まだその時は、町長は就任なさって日が浅かったものもありますし、また高橋副町長がお見えだったので、お二人に交互に答弁いただいた。今日は小林副町長にどう振るか考えていますが、その辺は副町長だって経歴の長い方ですから、何でも答えられると思います。それはさておいて、通告書にいろいろ、多々書かせていただきましたけれども、町長の昨年12月が終わってからも、先ほども、町長、3カ月経過したと。これは、まだまだ3か月しか経っていないのか、もう3か月も経ってしまったのか、捉え方だったと思うのですけれども。今まで、住民目線から見てみると、同僚議員も何回かこう、話をしていますけれども、12月会議で町長がおっしゃられた4つの目標ですね、そういったことは結構、同僚議員も話の中に出てきますし、また町の広報しなのにも、町長、写真とともにお書きになって、それが住民の方に伝わっているかなど。これが我々から見ると、お願いした施政方針演説にあたるのかなど理解しております。そういった中で、選挙戦がなく無投票でなられたということで、やはり住民の方から一番聞かれる、我々議員が一番聞かれるのは、町長の本当のお姿はどうかと。文章で見たものと、あと、我々の議会の放送が流れた時の、様々な議員からの質問に対して町長の、基本的に聞いたのは丁寧な方だというのは、近隣の皆さん、言っています。それは、いきなりお見えになって雑にやられては困るし、そういう意味では非常に丁寧に答弁されているなど。その辺はまた、今日質問しながら、こんなこと言うと失礼ですけれども、鈴木町長像というものを、ちょっと、少し掘り起こささせていただきながら、町長のお姿を住民の方に知っていただければ。これがまた、年度が変わって、体制がまた変わって行くでしょうし、そういった中で鈴木町政の、私は、今までは助走期間であったのではないかなど、4月からが新年度が始まり、予算がついて、本当に好きにやって良いのではないかなど、好き勝手じゃないのですけれども、鈴木カラーを出しながらやっていただくために、我々も、いくらでも応援いたします。そういった意味で鈴木町長像というものを、ちょっと見せていただければなど。非常に最初から、ややこしい質問を書いたのですけれども、町長がいろいろ決断する場面が多いと思います。そういったところで、価値判断の基準をどういうところに置いていらっしゃるか、その辺をまず、教えていただければと思います。

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただいまの佐藤議員の質問にお答えいたします。町政を運営していくうえで、町長として判断しなければならない場面は少なくないと考えておりますけども、そういった判断を行う際には、その前段において、これまでの経過、背景、そしてまた担当いただいております課の職員の皆様などの見解をお聞きしたうえで、そのうえで、私のこれまでの経験なども加味し、また、その判断によってどのような影響が出てくるのかということも思い描きながら、最終的な方向性を見出していく、そのようなやり方が良いのではないかと考えておまして、具体的な、何かものさしのようなものが、ここにあるというわけではないということで、ご理解いただければと思います。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) ごく普通におっしゃられて、当たり前かなと。町長の経験、それからその中には、この役場内の慣習というものもあるかなと思います。それも多分、さまざま職員からレク受けながら、お聞きになったかなと、あとはもう町長の持っている常識、そういった面で判断をされていくのかなと思います。先ほども同僚議員が伺っていましたが、職員の相当皆さん、例えば今回の議会においても答弁するのに、職員、さまざまな皆さんから協力をいただいて、町長は、それでだいぶ肥やしを作りながら、こう頑張っているなどお見受けいたします。そういう中で、先月、小林副町長が就任されました。その小林副町長が就任されて、町長はどのように感じられましたでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただいまの佐藤議員からのご質問ですけれども、私は12月の議会の後に、副町長さんが不在という期間が1か月半ほどありまして、この間を、大変、何と言いましょうか、緊張感のある日々を過ごさせていただきました。そうは言っても、それぞれの課長さんたちがおられて、いろいろな場面でサポートいただきましたので、表立って、何と言うのでしょうか、大きなエラーになるようなことはなかったと思うのですが、大変寂しい思いをしておりまして、ということで今回、小林さんに来ていただきまして、小林さん、先ほども議員おっしゃられたとおり、役場の中のこと、町の中のこと、大変詳しく承知されておりますので、さまざまな課題、小林副町長さんはじめ、職員の皆さんと一緒に、乗り越えていきたいと思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 寂しい思いをさせた面は、我々もあるのですけれども、緊張感はこれか

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

らもずっと持っていていただきながら、お隣にいる小林副町長、どんな感じで鈴木町政を支えていこうと、通告にはないのですが、副町長はオールマイティですから、通告になくても何でも答えてもらえると、どうでしょう。はい。

●議長(佐藤武雄) 小林副町長。

■副町長(小林義之) 佐藤議員からのご質問でございますが、町長のカラーを出してもらえれば一番良いところなのですけれども、非常に財政も厳しい中、というような状況もある中で、公約どおりに、なかなか進まない部分もございます。そんな中、私も40数年、行政経験がありますので、今まで培ってきた経験を活かしながら、鈴木町長の補佐役として努めていきたいと考えておりますので、今後とも議員の皆さん、町民の皆さんのご指導をお願いしたいと思っております。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) ようやく小林副町長の声が議会で聞けたように思います。誰も今まで通告に入れていませんでした。私の印象として、非常に財政に強い小林副町長という過去の印象があります。とは言え、現在はまた現在の財政の担当職員がおりますので、さらにその職員を指導していただきながら、バックアップしていただければ、非常にいま、財政の厳しいという言葉が、縷々聞こえてまいりますので、その財政力を上げていただくように、また頑張っていたいただければなと思います。これからまた3月、今、人事の話がまた出るところです。そういった意味で、小林副町長には、また、町長もより一層、過去の経験もありますし、職員のこと町長より、さらに詳しくは知っていると思います。その辺、また、町長は人事的な面もどのようにお考え、誰がどうこうということの、我々、議会は言える立場にはございませんが、どういった考え方で小林副町長と共に、また、人事をやろうとしているか、おおまかな面をお聞かせいただければなと思います。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 今後、3月末には、人事も新たに考えていかなければいけないという段階であります。その前段では、役場の皆さんの、それぞれの持ち味を活かせるような人材の配置というものが重要だと思っております。そうなりますと、それぞれの職員の皆さんの、これまでの経歴であるとか、経験、そしてまた、それぞれの皆さんの個性などを十分承知したうえで、配置していくということになるかと思っておりますので、小林副町長さんにもお手伝いいただいて、役場としての力が最大限発揮できるような人的配置を目指していきたいかと思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

◆6番(佐藤博一) もう、鈴木、まさにカラーを出していただければなと思いますし、そのためには、適材適所、職員を配置して、職員がまた頑張ってもらえます。さらに、職員が楽しく働けるような職場にもして欲しいと思いますし、それを集約して鈴木カラーを出していただければなと思います。やはり、町長の仕事は全て、私は職員の力がかなり、昨年、就任なさった時からのレクに始まり、副町長が今度就任され、職員の力が結集して政治し、その中で、政治姿勢というものに繋がっていくのではないかなと思うのですが、その政治姿勢という面で見えていきますと、当然、政治家でございますから、後援会も持っていらっしゃるでしょうし、場合によっては想像ですけど、役場職員のOBとか、そういった周りの皆さんからの知恵なりが入ってくるかなと。ただ考えるに、どちらかという、OBとなるとかなり使い古された、過去のあれかなと。やはり一番活きの良いのは現役職員のようです。過去のOBはもう、昭和の方々かなと、そういう方々を、町長に対して、何かアドバイスとかありますか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 今、後援会であるとか、役場のOBの皆さんとの関わりということかと思うのですが、私はこれまでの3か月の間ですけれども、そのように、関係の皆さんを捉えて意見交換するということはありませんので、広く町民の皆さんの、それぞれのお立場からお話を聞くということで対応してきたつもりであります。ですので、当然のことながら、そういう方々の中には、後援会の方もおられるし、役場のOBの方もおられて、それぞれがお持ちのご意見、要望に耳を傾けさせていただいたというのが実態であります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) やはり、往々にして外の方々には経験もやはり経歴なり、かなり大きいものを持っていらっしゃる方が多いです。町長はこの、まだ役場に来てまだ浅いということで、外からのものでコントロールされては、ちょっと我々は、やはり一番は聞く耳を持っていただくのは、職員からの、こうしたらどうですかという言葉とか、また、もっとは住民ですよ、そういった、そうするとOBの方も、後援会の方も住民の方々であります。でも、一番は経営、特に現役職員の上げてくることを良く聞いていただくことが、より良い町政にまた繋げていただけることかなと思いますし、それが、やはり職員に仕事を好き放題ではないですけれども、本当に好きにやってみなさいと、責任は町長、副町長が取ると、私も過去の経験で責任取りました。副が町長とともに取れということから、はいはいと取りました。それは議会でもだいぶ叱られました。そういうことも経験しました。でも、それだけに、職員に自由にやらせて仕事をやっていただくと、やはりそれが引いては住民のためになるなと思えば、やはり責任を取る。また、まだ報酬の減額は経験されていませんけれども、前町長も職員が何かこうミスをして、最終的

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

に町長、副町長、報酬減額というのはありました。それもやはり議会で報告受けて、そういうこともありますが、それを恐れているは何もできませんので、職員に、もう自由にやってみよと、そのへんは俺が責任を取ると、そういう、町長になっていただければなと思っております。県にけっこう長きにいらっしゃって、一番はやはり県の職員って全県を相手に全市町村、多分、見られたかなと思うのですよ。こういう町の、小さいところにいるよりも、もう少し大きな目で見て、勉強されたかなと思うのですけれども、そういった県にいらしたことで、ちょっとここには人脈と書いてしまったけれども、人脈よりも、もっと違う大きな面で、やはり学ばれたことをこの町長として、何か活かせるようなことがあるのかな。もし、培ったことがありましたら、それが町民のためになっていくようなことがあれば、非常に、鈴木町長に私は期待するところ大だと思います。どうでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 佐藤議員、おっしゃられたとおり、私も県の職員として33年間勤務いたしました。農業土木という分野の、これは、農業用水の確保ということで、川から水を取り入れて水路で水を引き、ため池に一旦貯留して、水田なり畑に供給する、そういうような仕事でありましたが、それに33年携わったということでもあります。その間、予算編成やら、国との折衝、現場の工事などを担当いたしました。土地改良区の皆さん、関係の皆さんと、打ち合わせをしながら工事をして完成させ、というような仕事だったので。その間に、私が、何と言いましょうか、感じて、これは大事にしなければいけないなと思って、仕事をしていた、ひとつの観点といたしますと、例えば、農業用水というのは、現在の世代が作ったものではないということなのです。長野県内の水田用水の多くは、江戸時代の1600年代に築造されたものがほとんどであります。と考えますと、400年くらいの歴史を持っているということになります。例えば、野尻湖から高田平野へ持って行く水も、1640年代だったかと思いますが、高田藩の小栗美作が江戸から河村瑞賢を連れて、野尻湖に来て、野尻湖の水を少し下げさせてくれと頼んで、そして野尻の人が良いよと言ったというのが最初の話だと聞いておりますが、そのような古くから守られてきた水を今、受け取っていると、そして、この水を次の世代に引き継いで行くためにはどうしたら良いのかなというので、私どもが現代の仕事として、どういうふうに携わって、関わっていくかということをやっていたというわけであります。私、回りくどい話になってしまったかと思いますが、そのような観点を、他の業務においても同じように捉えられるのではないかと考えておりますので、そういった意味で過去の経過を尊重するという立ち位置は守っていきたいと思っております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 実に、町長から良いお言葉を、私は聞いたなあと感動いたしました。

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録（4日目）

と言うのは、イメージ的には、農業関係だけに特化したふうにはかイメージを持っていなかったのです。それが今、野尻湖から中江用水のほうに水が行った歴史的な話とか、水となると、やはり信濃町は、これは大事な水源を持っている町ですので、そういったところにも、また町長も活かしていきたいというふうにおっしゃいましたし、そういった、水に関する知見がかなり高い方だなと。そうすると、別に水商売ではないのですけれども、水を売ってくださいではありませんが、住民のためになる、これは水道管が例えば相当古いものがまだまだ残っているとか、ダイレクトには先ず、水道管ですよ。あとは農業関係のこともありますし、あと、大事な野尻湖というものも抱えている町です。そういった、あとで、またどんどん、これから質問しますけれども、やはり信濃町の、この水というものを、やはりアピールして売っていただければ、これは水をペットボトルに入れて売るのでなくて、違う売り方が、また考えてもらえれば、これはもう、職員の知恵を絞って、水というものを町長が非常に知見があるということで、売って貰えれば、信濃町を水の町ではないけれども、有名にできるのではないかなと、今、非常に良いお言葉を聞きました。そういった、例えば今、いきなりこの場で思ったのですけれども、そうやって水を中心に売っていくような、他の水道もそうですけれども、どのように水というものを考えていますか、信濃町の。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） 水について、先ほど申しましたのは農業用水ということなので、量としての水というのでしょうか、そのような観点なのですけれども。今、議員のおっしゃられたとおり、質しての水というのも、当然のことながら重要なポイントかと思えます。私は、細かくはちょっと承知していませんが、信濃町にも仁ノ倉の上手、あるいは黒姫の山桑の上手に大変美味しい水があると聞いております。これは当然のことながら、現在の信濃町の水道としても利用させていただいているのだと思うのですが、そういった水が、量、質、そしてまた持続性とか、そういった面で利用が可能であるのであれば、その開発について検討していくのも悪くはないと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 佐藤博一議員。

◆6番（佐藤博一） また、水についても職員と意見を聞きながら進めていただければなと思います。新年度予算について、国や県から新たな支援策という質問を入れてみたのですが、これはもうほとんど、我々も総務課長の、先週、一般会計、特別会計の予算書、各課長さん方から、その財源とは国、県、そこに出ておりますので、それをあえて合計して、じゃあ国いくらです、県いくらですと、ここではあえて問いません。町長が公約なり、その4つの目標という、しつこくこの4つの目標と、皆から言われると思うのですけれども、それを新年度予算にどのように活かして、4つありましたよね、活かして、住民の期待に込めていくのでしょうかという、その辺はいかがでしょうか。

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 12月議会の挨拶の中で、4つの観点、ポイントについてご説明をさせていただいたところですが、その内容が今回の予算の中でどのような形で反映されているかというふうにご説明をさせていただいて、お答えをさせていただきます。1つ目といたしまして、コロナ禍からの再生ということでありまして、5月8日からコロナ感染法上の扱いが5類に引き下げられるというような中で、国内外の人な流れが活発化し、観光産業も回復傾向に転ずることが見込まれます。そういった中で、各種団体への補助につきましては、一般財源の予算の範囲内で維持させていただくとともに、都市部からの移住希望者の増加を図るため、定住支援員の増員とフォローアップの強化を図ることとしております。2点目の子育て支援、高齢者福祉の充実につきましては、先ほども申し上げたとおり、学校給食費の保護者負担の軽減、あるいは高校生の通学定期代の助成の充実というようなことを今回挙げさせていただいております。それから、3点目でありまして、地域固有の持ち味を活かす施策の充実というようなことで、野尻湖の親水公園の看板の設置、あるいは老朽化しておりました栈橋の撤去、あるいは景観形成のための癒しの森コースの整備、森林の間伐等を盛り込んでございます。4点目といたしまして、安心安全な暮らしに欠かすことのできない医療提供体制の強化でございますが、新病院の移転先であります柏原小学校の解体工事が本年度完了いたしまして、令和7年春の開院に向けて建築工事および関連経費につきまして、病院事業会計へ計上しております。これに関しましては、ご案内のように資材の高騰等によりまして、建築費用が当初の計画、予定額よりもかなり膨らんでいくことが予想されますので、4月に入りましては価格の見直し等行いまして、状況の変化を、動向を注視して対応して参りたいと、そのように考えております。以上でございます。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 今おっしゃられた、1番目と2番目に関連して、先ほど同僚議員が、第2子の給食費の話が出ました。私もそれを聞いていて設計上は理解したのです、15歳以下という。ただ、都会から1番目の移住のことにに関して、人を増やして、2番目として子育てに使っていくのだと、給食費のことを。そうすると都会の人に移住してくださいとアピールするときに、簡単に言えば、2番目からはどうこうですよというのが普通ですよ、それを15歳でどうこう言っているのは、信濃町に来てみたら、なんだこれ、詐欺ではないかという話になります。やはり、もうちょっとシンプルに設計して、町長、設計は事務方の責任です。そういう設計して、それを言わせる、言うのは町長の仕事なのです。町長なり移住定住係が都会へ行って相談会やって、信濃町を売り込むわけですから、やはりそれは、もうちょっと考えてもらわないと、町長は中身については多分言われたとおり、喋っているだけなのでしょうから、一番大事なのは、町長はそれを外に発信していただく仕事なのです。その時に、先ほどの、15歳だ何だという、この難しい

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

設計のことを出されても、私は、都会の人は後になって何だという話になるのではないかと思うのですけれども、その辺は町長どう思われますか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 先ほどの給食費への補助ですけれども、最終的に、制度のかたちをどのように設定すれば良いのかなというので、教育委員会それから財政の方とも、さまざまなパターンについて検討した結果として、1年生から9年生までの小中学校に複数と言いますか、2人以上おられる方を対象とするというのが、スタートラインとしては適当ではないかということで判断をしたところであります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) やはり、物事、宣伝していく上で、シンプルが良いのです。そうすると、2人目半額と言えば簡単なのに、それを厳密な製造設計のものが、今、町長がおっしゃられたようなことを言っていると、都会の人は忙しい人だから、信濃町のブースは通り過ぎてしまいます。やはりシンプルに宣伝して、発信していただきたいなど。そのためには、事務方がやはり考えてもらう、これは、別に今回の教育委員会に限らず、他の課も同じなのです。他の課の方が、どれだけ物事を設計して、喋るのは町長ですから、責任を持って住民の方にアナウンスしていくのは町長なので、そういった意味でこれは職員に、もうちょっと俺に喋りやすいように作ってくれと、そのくらい言うていくのが町長なのではないかと思うのですが、どうですか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 佐藤議員のおっしゃることも良く分かるのですけれども、私といたしましては、今回の補助のあり方と言いますか、これは、先ほども申し上げましたとおり、関係の皆さんと相談のうえ、最終的に判断させていただいたところでありますので、ご理解のほどお願いしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) もう今回の給食のことは、実は、私、頭から離れているのです。次のことを考えて、やはり職員にどう指示を出して、町長がいかにアナウンスしやすくしていくかの、やはりそれは町長のリーダーシップです。それをやはり、やっけて行かないと、七面倒臭いのを作られて、それを町長が、ああだこうだなんて住民に言ったって伝わらないです。やはり町長が簡単に鈴木でございます。これはこれでございます、ぽん、とやっけていかないと、四の五の言うていたら住民、やはり、書類を貰って、広報しなものを

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

見て、ああ、わかった、わかった、そこで、やっとわかっている、わかるのは良いのですけれども、やはり町長の言葉の重さというのがあると思うのです。その辺、また、お考えいただければと思います。そういった意味で、時間も3か月で、先ほどから区切っていますけれども、住民の方と対話とか丁寧な説明とあって、そういうこの3か月で行った機会がありましたでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 先ほども少しお話させていただきましたが、この3か月の間、それぞれの集落で開催されております地域懇談会あるいは各種団体が運営しております会合、あるいは町村会、広域連合、様々な会合に参加、出席させていただいております。そういった中で、出席された皆さんから、様々なご意見をいただきましたけれども、まだまだ十分ではないと考えております。今後は、お声がけいただく会合だけではなく、私どものほうから、特に若い世代の皆さんからお話を聞くような機会を設けて、町政への関心を少しでも高めてもらえるように努めて行きたいと思っています。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 先般も商工会で行われた懇談会、我々も議員として出させていただきました。そういうところにも町長がお見えでございました。そんな各種団体、これから総会等もありますし、多忙になると思います。その辺はまた、よろしく願いできればなと思います。昨年、暮れに、うちの姉妹都市はどこですかと町長にお伺いして、流山と能登町というふうにお答えいただいたのですけれども、実質、今まで、その2つの市と町、姉妹都市ということで、訪れはどうか、しましたか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 姉妹都市でございますが、12月会議の後、12月27日、もう本当に年度末になってしまったのですが、流山市へ挨拶にお伺いいたしました。井崎市長さん、あるいは教育長さん、その他の皆さんと面会いたしまして、情報交換をさせていただいたところであります。また能登町につきましては、2月15日の日に、大森町長さん、金七議会議長さん等が来町されまして、一泊で来町されましたので、当町からは議長、副議長にもご同席いただきまして交流を深めさせていただいたところでございます。今年度は、恒例となっております交流事業の他に、流山と能登のそれぞれの少年野球チームが信濃町にお越しただいて、3チームで野球大会をやる予定にしております。8月だったかと思うのですが、予定しております。皆さんにもぜひご参加いただいて、この大会を盛り上げて、次なる交流に繋げていければなと考えております。以上です。

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

●議長(佐藤武雄) 佐藤博一議員。

◆6番(佐藤博一) 実際、外交というふうには私は思っているのですが、暮れに、先ほど、年度末とおっしゃいましたけれども、年末ですね、これはやはり、いきなり多分決めて行ったのでしょうか、総務課長。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 議員さんからご質問いただく前から行く予定ではあったのですが、当初予算の編成等もありまして、なかなか日程、また相手先もいますので、日程が取れなかったものですから、ようやく落ち着いた段階で行けるということで年末になったという状況でございます。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 2月に能登町さんがお見えで、そこは先方の町長、議長お見えでして、うちも議長、副議長、お会いしました。では年末は、先ほどお伺いしていると、市長、教育長ということでしたよね。他の方、議会は伺いましたか。議長にお会いしましたか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 当日は、議長さんにはお目にかかれませんでした。詳細には、井崎市長さん、それから教育長さん、上下水道事業管理者さん、それから経済振興部長さん、この4名だったと記憶しております。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 実はですね、今年になって早々、先方の議会から私のほうに、いや実に寂しかったと、信濃町の町長さんがお見えになったのに、何で議会に顔を出してくれなかったのかなと、言っていました。やはり、その辺は、能登町さんは、町長、議長でお見えになって、じゃあ、流山は何で議会だけ、これは多分抜けてしまったのかな、先方が忙しかったのか、状況はありますけれども、そういった心配りを、また今後いただければなと思います。これがまさに営業マンとしての町長のお仕事かなと思います。町長が主要産業の観光、これを持ち味を活かしていくというふうにおっしゃっていました。じゃあ具体的に、どのようなことをやっていくか、これは事業のことをただ並べるのではなくて、やはり観光という持ち味を町長は営業マンとして、副町長も一緒ですよ。どういうふうに行動していくか、いろいろなトライアスロンだ、花火大会ありますだの、観光、野尻湖や黒姫のイベント名を出すのではなくて、やはりこれは、うち、大事な観光

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

地ですから、この観光資源の持ち味をどう活かして、どう発信していく営業マンになりますか。はい、お願いします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 観光資源をどのようにアナウンスして、アピールしていくのかということだと思うのですが、いろいろなツールがあろうかと思えます。今、ネットもありますし、これまでと同様にパンフレット、チラシ等の広告宣伝というものの力も、あながちその効果が失われているとも考えておりません。そういった中で、私、信濃町における観光のあり方の一つの形として、これまでの、来ていただくのに、景色だけを見ていただくとか、そういうことではなくして、少し時間を取っていただいて、味わっていただくという形が良いのではないかなと思っておりまして。例えば、森林セラピーで森の中を歩いていただいて、お泊りいただいて、翌日は農作業の体験をしていただく、あるいは、泊まる際もホテルやペンションだけではなくキャンプ場もありますし、そういった幅広にいろいろな選択肢を用意しておいて、少し滞在していただくという形が望ましいのではないかな、今風ではないかなと思っております。それで、その中でこれまで森林セラピーの関係で、歩くルートも設定していただいておりますけれども、これらに加えて昨日も少しお話しましたが、あまとみトレイルとか、いろいろな形が生まれてきておりますので、そういう広域的なプログラムについても、積極的に関わっていただけると良いのではないかなというふうには考えております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 先ほどの水に続いて、また褒めちゃいます。素晴らしいです。と、言うのは、先般、癒しの森サロン開かれましたよね。町長、お見えになったと思うのですが、そこに出ている方々が非常に良かったというふうに、過去は東京まで職員なり町長なりが、あといろいろな関わりのある方々が出向いて、都会でおもてなししていたものを、今年は信濃町でやっとな、非常に良かったという声が聞こえてまいりました。そこを多分、町長はうまく掴んでいるなというふうに思いましたので。ということは、うちの信濃町の周りに、隣の妙高市さんとか、野沢とか、有名な観光地は周りにいっぱいあります。で、そういう有名な観光地の首長さんは、皆さんフットワークがよろしいです。東京にもどんどん行くし、先ほど国にも、いろいろ関わったこともあるとおっしゃいました。やはり東京にも行く、また、県にも行く、で、先ほど都会の方をこう、癒しの森等でおもてなしとか、体験していただきながら、別に全部町長がついて回ってくださいという意味ではないですけれども、やはり、このフィールドの中に、うちは結構、宝の多い町だと思っておりますので、町長がやはり、例えばたまにはペンションの方に出向いてみてもらうとか、野尻湖の周りを見ていただくとか、お住まい野尻ですから、毎日見ていらっしゃると思うのですけれども。ただその中には、やっぱり皆さん、

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

事業者さんがいるわけです。そこに、いかに応援していくか、声をかけていくか、それが信濃町を元気作る、そのリーダーだと思うのです。そういったところをやっていただけではなと思います。昨日、同僚議員が、防犯カメラの話をしていました。私も通告書に挙げておいたのですけれども、そこで、ほぼもう、実情等も、昨日聞いたものですから、今、やはり、全国でさまざまな強盗等、今までに我々が知らなかったような犯罪が増えていますよね。我々、車を運転していてもドライブレコーダーも、だいたい皆さんが付ける時代になってきています。各ご家庭でも、信濃町はちょっと分かりませんが、でも、都会、都市部では皆さん防犯カメラをつけて、車にもドライブレコーダーと。まあ、悪く言うと監視社会になって行つては困る、これ国が別にこの情報全部が、どこかの大きな国ではないですから、我々がやはり、それを予防するための道具でもあるし、もし車の場合は過失割合を求めるのは、どちらが悪いとか求める場合にも使います。ちょっと、ふと思ったのと、思ったのは後で良いです。実はこれ、うちの地元が、私は古間の駅前に住んでおまして、この1月にどんど焼きの準備をした時に、住民の方からチラッと出た言葉が、うちも駅抱えているので、駅に防犯カメラでも付けたらどうかと。冬場はそんなに人は集まらない、通勤通学の方ぐらいで、これが春、これから暖かくなって、夏場になってくると、光に虫が寄せられるように、結構、夜、さまざまな音のする車、バイクが寄るのです。結構、皆さんそれを嫌がっているので、人によっては警察に通報とかして、お巡りさんにも来てもらったりはしていますけれども、今のところ何もないから、防犯カメラは良いにしても、例えば、昨日、町ではトンネル、線路の下ぐるトンネルに1つしかないと言っていましたけれど、町の関わりのあるところだと、道の駅には多分あるのかなと、黒姫駅は私の知っている限りは、駅の構内にはあります。これは、過去に警察が来てデータを見ていたのを、私は見たことがあります。外に向けて、じゃあカメラを向ける、そうなるとこれが駅につければ、これは、駅の建物ですから、じゃあ、しなの鉄道さん、やってくださいと言えるかどうか、それが、じゃあ町負担でやりますよとか、そういった、時間もだいたい押してきました、こと、そういった防犯に対して、カメラ、公の施設に付けるか付けないかという簡単なことではなくて、町長はこれから、もう、信濃町が高速も鉄道もかなり便利で、高速もインターのある町ですから、犯罪等がこれから起きてもらっては困るので、そういったための防犯意識をどのように住民の方に求めるか、または、駅とかそういう事業者さんに、どのように求めるか、で、安心安全をどう担保していくかという考えは、何かお考えはありますか。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ただいま佐藤議員おっしゃられたとおり、最近は、これまでには想像をしたこともないような凶悪な強盗事件が発生したりしております、まさに防犯対策というのが、地域社会を守る大きな柱の1つになってきているのかなとは感じております。ただし、昨日、北村議員のほうにもお答えさせていただいたとおり、現時点において、地域の皆さんからこれ付けてくれというような要望は届いていないというようなこ

## 令和5年第421回信濃町議会定例会3月会議 会議録(4日目)

ともありますが、この犯罪、あるいはそれに対する対策の1つとして防犯カメラというのが、有力なツールであることは間違いがないと思いますので、諸般の状況を見ながら、必要な対策を講じていければと思います。やはり地域住民の皆さん方のご了解が先ずは前提かと思いますが、相談させていただく中で、必要であればそのような対策も考えていかなくてはいけないのかなと感じたところであります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) ではこれで、そろそろ質問を終わりにしていきたいなと思っているのですが、一番、これ、ちょっと昨日、通告と若干ずれるかもしれませんが、防犯カメラという意味で、防犯灯がそろそろLED化が皆さん終わってきて、だいぶ予算的な面が、振り分けが変わってくるかなと。で、よく畑でも電柵とかにも補助金出したりして、イノシシだの防いでいましたよね。だとすれば、これから各ご家庭で防犯カメラを、ダミーでも良いですけど、玄関に設置した場合、少しは補助金みたいなもの出していか、で、それがやはり住民の方への防犯意識高めていただくという意味で、そんないっぱい出す必要はないのです。それはまた制度を考えてもらえば良いので、そういうカメラというものを、各ご家庭に設置していただくふう方向性に、そういうものも1つありかなと思うのですが、町長、どうでしょう。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ご指摘のとおり、防犯カメラの抑止力と言えればよろしいのでしょうか、それからまた実際に何か事件等があった場合の有力な証拠を構成する資料になり得るという点で、防犯カメラの効果と言いますか、それは否定するものではありませんので、そのような状況になりますれば、あるいは国や県の補助制度なども活用も考慮する中で、検討できればなと思います。

●議長(佐藤武雄) 佐藤議員。

◆6番(佐藤博一) 今、国、県、そういったお金的なものも考えながら、非常に前向きな町長の考え方、受け取れました。以上を持ちまして、質問を終わります。どうもありがとうございます。

●議長(佐藤武雄) 以上で佐藤博一議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため、午後1時まで休憩といたします。

(終了 午前11時44分)